

# 看護職員負担軽減計画

令和8年4月1日

神奈川リハビリテーション病院

項目	現状・問題点・改善点	必要な対応	取り組み状況等
薬剤師の病棟配置拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>内服薬や点滴の管理を、医師・看護師が実施していた。</li> <li>また入院時の持参薬の整理は看護師が行っていた。</li> <li>薬の管理に薬剤師が関わることで、看護師の負担軽減に繋がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤師の病棟配置の拡大(薬剤師との業務分担の調整)</li> </ul>	<p>実施済み (当初、1病棟午後のみ配置だったが、以降随時薬剤師の関わりを拡大しており、現在は全病棟に担当薬剤師が配置されている。)</p>
育児中職員の安心した職場復帰や、復帰後の負担軽減のための体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>育休中の職員などが安心して職場に復帰出来るような体制を整備することにより、負担軽減と定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>復帰時の育児短時間勤務の推進</li> <li>勤務割り振りの配慮</li> </ul>	<p>実施済み (育休者が安心して復職することが可能となるよう、育児短時間勤務の利用や、復帰後の割り振りの配慮について、積極的に相談に応じて対応をしている。)</p>
看護助手の配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>基準を超える看護師は配置されているが、より介助が必要な早出・遅出などの時間帯は看護師の負担が大きくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置以上の看護助手を、早出・遅出勤務を中心に配置することで看護師の負担軽減を図る。</li> </ul>	<p>実施済み (基準を超える看護師を配置している中で、看護助手についても定数を超える数を配置して、看護師はより看護業務に専念出来るような体制を維持し続けている。)</p>
医師事務配置による負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>多忙な外来診療科に対して配置をしている。</li> <li>ただし、医師事務作業補助者の配置が充分ではなく、また外来看護師の負担は大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師事務作業補助者の拡大</li> <li>医師事務作業補助者の教育</li> </ul>	<p>実施済み (平成30年から配置、徐々に増員するなどし、医師及び看護師の負担軽減に努めている。)</p>
検査業務における負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者の検査時に、指定の時間帯に検査室に送迎をする必要があるため、病棟での業務を止めることとなり負担となっている。</li> <li>また病棟における検査関連物品の管理及び整理も可能であれば物品に精通している検査科職員の協力を得たい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査科との業務分担の調整</li> </ul>	<p>実施済み (検査科での採血および生理検査実施時の病棟・検査室間の患者の送迎を検査技師が担うこととした。また、病棟における検査関連物品の管理及び整理は適宜、検査技師が病棟に行って行うようにするなど、看護業務の支援をしている。)</p>
配膳時の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者の食事配膳時に、病棟の看護師または看護助手が患者ごとにお茶を用意している。</li> <li>給食委託業者が食事提供時に併せてそれも行うことで、看護職員の負担軽減に繋がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養科との業務分担の調整</li> <li>給食委託業者との調整(場合によっては契約内容の変更)</li> </ul>	<p>検討中</p>
周手術期支援チームの設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFM体制は整備されているが、より詳細な情報把握が必要な周手術期の患者に対しては、病棟看護師の負担が大きく、相応の時間を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFMの体制を強化(Ope、ICU、麻酔科医の連携)することで、入院後の病棟看護師の負担軽減及び勤務時間の削減を図る。</li> </ul>	<p>検討中</p>
管理者体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>200人を超える大集団であるため、スタッフの管理及び教育などが容易ではなく、個々のスタッフの質の向上を図るうえでは、体制の見直しが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理体制を強化することにより、スタッフの質の向上に繋げ、もってそれぞれのスタッフの負担軽減と勤務時間の削減に資す。</li> </ul>	<p>副看護部長を3人体制に変更し、それぞれ「総括」、「業務」、「教育」と担当する業務を分担することで、管理体制の強化を図った。また、約7割の病棟において副科長の複数配置を行った。今後、全病棟の複数配置を目指していく。</p>
保育ルームの運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て中の看護師が継続教育(研修等)を受けられる環境が整備されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内に保育ルームを設置し、研修中の職員の子を預かることが出来る体制とする。</li> </ul>	<p>令和元年4月24日の病院職員意見交換会で提案し、令和元年9月8日から院内に設置された。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により、対面研修中止となった。その後、対面研修は再開したが継続する面会制限や保育士の退職により、保育ルームの運営は現在も中断している。しかし、保育士の採用もできたことから再開に向け検討中。</p>
看護補助員の確保とタスクシフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴介助や訓練送迎等、看護師でなくても実践可能な業務を看護実践に加えて行うことで時間外勤務等の負担に繋がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師が専門性を発揮できる体制を構築する。</li> </ul>	<p>看護補助員の採用活動(ハローワーク・ホームページ等)を継続する。 令和8年4月1日より、看護補助者ラダーを導入・本稼動したことから、補助者の活用を推進していく。</p>
医療DX推進による業務負担軽減の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療DX推進により効率的な業務が行えるよう検討を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子カルテや医療機器等、効率的なシステムを構築することで、負担軽減及び勤務時間の削減、安全で持続可能な医療体制の提供を目指す。</li> </ul>	<p>令和7年度に電子カルテの更新がされた。 加えて、令和8年4月より看護DXの一環として、スポットチェックモニターが導入された。活用推進および定着に向け、評価を行っていく。</p>